

は、売上高の推移（2期間の実績と予想）

	機 械部門	化成品部門
<p>フロント産業</p> <p>フロント化成は食品品質保持剤の製造部門</p>	<p>医薬品・食品業界全般の設備投資低迷と価格競争激化などにより減収</p> <p>製薬企業の生き残りをかけたリストラ策の中で、工場再編成にともなう新規設備投資や、既存設備の更新など設備投資姿勢は回復の兆し</p> <p>昨今の受注動向は、久し振りに活況の様相を示している</p> <p>実績4,011(02.2) 実績3,366(03.2) 予想3,700(04.2) (単位:百万円)</p>	<p>栄養食品品質保持剤</p> <p>食品品質保持剤の出荷量は横這い一方、価格競争激化により減収</p> <p>新商材は殆んど売上寄与に至らずシームレスミニカプセル事業は本格的な生産体制を整え、年末には提携先より全国販売へ</p> <p>実績2,208(02.2) 実績1,910(03.2) 予想2,100(04.2) (単位:百万円)</p> <p>治験薬品添加剤</p> <p>自社生産している医薬品添加剤は増収基調（大手製薬企業の国際的な大型新薬で採用）</p> <p>V P S 社への治験薬製造受託事業の仲介は、契約内容の調整に時間を要し、半年程度遅れてスタート</p> <p>実績1,447(02.2) 1,565実績(03.2) 予想1,800(04.2) (単位:百万円)</p>
<p>VECTOR社</p> <p>1997年、持株会社FIL社を通じて買収 最終的な持分比率63.0%</p>	<p>近年、重要な営業戦略として位置付けている新規顧客開拓が実を結びつつあり、業績は堅調推移中</p> <p>2002年に不振部門のCOATING MACHINERY SYSTEMS社（食品向け連続コーティング装置を製造）を処分 子会社整理損約80万ドル（97百万円）を特別損失として計上</p> <p>欧州市場の開拓が今後の経営課題</p> <p>実績22,070(2001) 実績18,320(2002) 予想17,400(2003) (単位:千ドル)</p>	<p>フロント産業が、自社で生産している医薬品添加剤を使用 本格生産時には、原料を販売</p> <p>予めフロント産業の浜松研究所にて、製剤研究 研究受託ビジネスとしても事業化</p>
<p>V P S 社</p> <p>VECTOR社の子会社を業態転換し、2001年にSMO（ ）として設立 最終的な持分比率71.6%</p>	<p>VECTOR社の機械装置を設置 本邦での本格生産時には、フロント産業が生産機を販売</p>	<p>2002年半ばに、長期・大型の治験薬製造を受託し、本格的に事業として立上げ</p> <p>複数の製薬企業等から引合いがあり、事業拡大の手応えを確認 将来に備え設備増強等を図っていく</p> <p>実績 570(2001) 実績 1,280(2002) 予想 3,000(2003) (単位:千ドル)</p>

・ SMO : Site Management Organization (治験施設支援機関)